

貝殻島

船橋港を後に船は航路を南に進む。左手には浜町・若松・高瀬町に建つ倉庫群や食品コンビナートがあり埠頭と工場の護岸が入り組んでいる。右手には、大型船舶が着岸する船橋中央埠頭を見る。やがて前方に笠雲の様な白い島が浮かび上がる。そこは、三番瀬に生息するアサリ・バカガイ・シオフキガイ・アカニシ・・・が風波や潮流により運ばれて出来た島だ。

豊饒と減耗が激しく繰り返される三番瀬。そこに面したこの場所は、死貝の堆積によって年々大きくなってきた。漁師はそこを「貝殻島・貝殻山」と呼ぶ。島の高さは、低極潮位(大潮の最大干潮乾湿線)から約4メートル。堆積した貝殻層は、側面が波に取られ雪庇のようになっている。島の頂点から南方に傾斜する法面には火口湖の様な潮溜まりがありコンクリートの築堤へと接する。

春、潮溜まりを覗くと、冬場に孵化したシラス(カタクチイワシの稚魚)・マハゼ・カレイ・・・などの多様な稚魚が活発に動き回る。貝殻層は干潟の生き物にとって欠かせない揺籃の場でもある。また、野鳥ファンの視線を集めるミヤコドリ・ハマシギ・ウミネコ・・・などが羽を休める安全地帯でもある。

「輪廻生死」時が育む貝殻島から望むと、遠く西には日本の名峰富士山、東にはなだらかな房総の山並みが連なる。だが、この景勝地は手強い。なかなか思うような写真を撮る事の出来ない場所でもある。



写真と文：渡辺行雄

東京湾資料について

駅に降り立つと、潮の香りのする町。かつての船橋は、海が身近なところがありました。船橋の海で泳いだ、船橋の海で魚を追い廻したという記憶のある人もきっといらっしゃるでしょう。どこかノスタルジックな船橋の海。

2000(平成12)年7月の中央図書館の移設・拡充を契機に、地域の特性に応じた資料を重点的に収集することにしました。潮の香りこそしないまでも、すぐ間近にある東京湾に係わる歴史、地形、鳥、環境、開発、漁業などの図書やパンフレットなどを「東京湾資料」として収集してきました。

東京湾、特に湾奥部に関する資料については重点的に収集するように努めました。湾奥部のなかには、船橋・市川の沖に広がる三番瀬をはじめ、谷津干潟、行徳鳥獣保護区なども含まれますが、特に、三番瀬に関するものは網羅的に収集することを目標してきました。

市販の図書だけではなく、行政機関や団体の発行する資料やパンフレットもできるだけ集めるようにしました。雑誌や紀要に発表された報告や論文も複写をしたりして集めました。その結果、ようやく600点を超える資料を集めることができました。三番瀬については、まだ、網羅的とは言えない状態ですが約130点の資料を所蔵するまでになりました。ここを一区切りとして、一層の飛躍を図って行きたいと言う思いをこめてこの展示会を企画いたしました。どうぞ、ご覧いただき、東京湾を身近に感じていただければと思います。

地域や地域のもつ特性に関する資料を積極的に収集し、整理するのは公共図書館の重要な役割のひとつです。当館の「東京湾資料」も、現代の利用に供するのはもちろんですが、将来に伝えていく資料としても、今後も多くの方々の協力をいただきながら、資料の充実、蓄積に努めていきたいと考えております。

船橋の原点と言ってもよい「船橋の海=東京湾」を未来に活かしていくためにも。
(三沢博志/中央図書館)

三番瀬をみるには？

「ふなばし三番瀬海浜公園」から遠望します。

【電車】JR船橋駅南口(京成船橋駅)、京葉線二俣新町駅より、京成バス「船橋海浜公園」行き終点下車。

【車】京葉道路「原木IC」の原木側出口より、信号(一つ目)を左折、船橋中央埠頭へ直進。

また、様々な環境団体等が定期的に船・徒歩による現地観察会を開催しているようです。お問い合わせの上、三番瀬に行ってみてはいかがでしょうか。思わぬ発見があるかもしれません。

東京湾 三番瀬

図書 & 写真展



三番瀬は東京湾最奥部にある、浦安市、市川市、船橋市、習志野市の四市に三方を囲まれた、約1,800ヘクタールの干潟と浅海域です。

会期：平成18年2月24日(金)～3月5日(日)
午前9時30分～午後5時

*最終日は午後4時まで 月曜休館

会場：船橋市中央図書館 2階 会議室

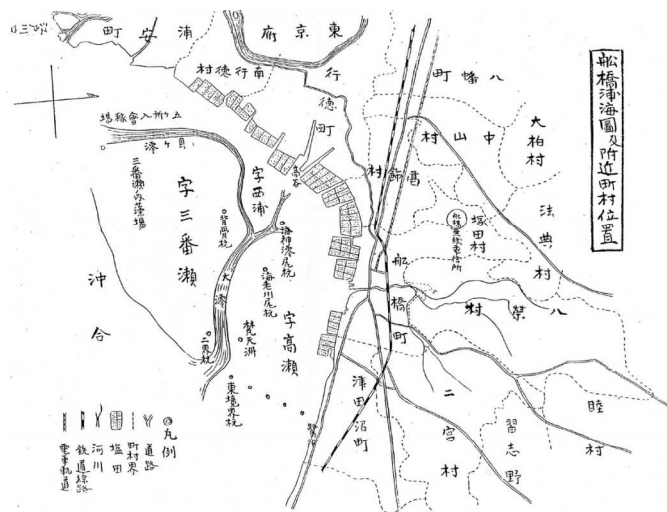
主催：船橋市図書館・船橋市視聴覚センター

問合せ：船橋市中央図書館 047-460-1311

三番瀬の歴史

なぜ「三番瀬」なの？…三番瀬について誰もが感ずる疑問は、一番瀬と二番瀬はなかったのか、ということでしょう。実は「一番瀬」は不明ですが、「二番瀬」という言葉の見える古文書が1点だけあります。寛政12年(1800)の奉行所宛の訴状に、「船橋磯獵場と唱(となえ)、右の内字高瀬・二番瀬・三番瀬杯(など)」とあるものです。ちなみに「三番瀬」の方は古文書類に数十度も現れ、享保15年(1730)の代官所あての訴状が初出です。それには、「高瀬・二かいの洲・三番瀬」とあります。すると二かいの洲が二番瀬と同じもの、という可能性も考えられます。さらにいえば高瀬が一番で、漁師町からの距離で、二番・三番と付けたとも想定されますが確認はありません。(三番瀬の読みについては、一般には「さんばんせ」が多いようですが、地元の方の古くからの発音は「さんばんぜ」です)。

この三番瀬は江戸時代には地引き網の漁場であるばかりではなく、内湾有数の貝漁場でした。浅海に魚がいなくなる晩秋から早春にかけては、貝漁が船橋漁師の生活の糧(かて)でしたが、絶好の貝漁場である三番瀬では密漁が絶えず、幾度となく紛争が起きました。



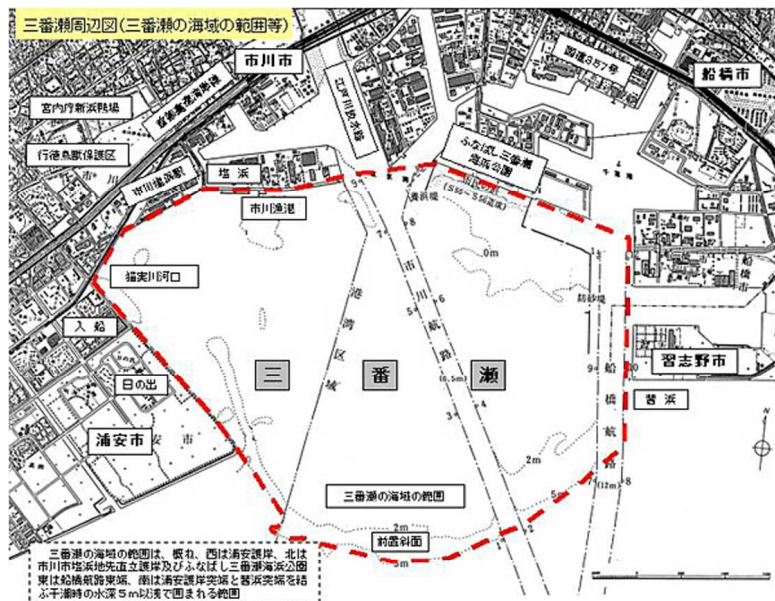
武藤啓次郎氏が作成したと推定される大正初期の船橋浦の略図

三番瀬の範囲は？…次には、歴史的に三番瀬の範囲はどこからどこまでであったかという問題もあります。三番瀬の西端が船橋漁師の占有漁場の西端であったからです。ところがこれについては、船橋漁師の主張した範囲と、現浦安市域や江戸川区内の漁師が主張した範囲が異なる等、難問です。そのため、江戸時代には度々出入り(訴訟)がありました。しかし、それを埋め立てが進んだ現在地に当てはめることは困難です。大正5年(1906)ころ、『船橋町誌』の原作者と想定される武藤啓次郎氏が作成した浦の略図が

あり、だいたいの範囲はわかりますが、細部は確定できません(塩田の部分は三番瀬ではない)。

いずれにせよ、元来の三番瀬は現在の船橋市域の沖ばかりではなく、市川市域と浦安市域の沖も含んだ広大なものでした。かつての船橋漁師は三番瀬を含んだ広大な場所を、陸上の行政区画を越えて占有漁場として認められ、操業していたのでした。

三番瀬現況周辺図



出典 千葉県ホームページ三番瀬

埋め立て問題と行政…国の工業化政策をうけて千葉県でも、昭和20年代後半から遠浅海岸を埋め立てる工業地帯の造成に着手し、36年(1961)には京葉臨海工業地帯造成の一環として、船橋・市川沖の埋め立てを計画し、順次着工しました。

三番瀬の北部も昭和40年代から埋め立てられ、工業用地や港湾関連用地等となりました。船橋市潮見町や市川市東浜です。

その後、県は平成5年(1993)に740ヘクタールの三番瀬の埋め立て計画を発表しましたが、貴重な自然である三番瀬を残すべきだという声が各方面から広がり、11年には埋め立ての面積を、当初計画の7分の1とする見直し案に変更しました。

しかし、13年に三番瀬埋め立てを白紙に戻すとする堂本暁子氏が千葉県知事に当選し、県議会において101ヘクタールの埋め立て計画は行わないと表明しました。そして三番瀬再生計画検討会議を設立、16年に「三番瀬再生計画案」が策定され、17年に県が「三番瀬再生計画」の素案を発表したというのが現段階までの経緯です。(綿貫啓一/西図書館)

三番瀬の野鳥たち

東京湾には、身近な場所に湿地(ウエットランド Wetland)が残されています。この、湿地には、数多くの水鳥類が生活しています。多くの水鳥たちの生息地として三番瀬は、国際的に有名ですが、あまり市民に知られていないように感じます。さて、この三番瀬という湿地には、どのような野鳥が生活しているのでしょうか？三番瀬やその周辺では、約200種の野鳥が確認されています。三番瀬で生活している200種の鳥たちは干潟、浅瀬、海上をうまく利用し、生活しています。

干潟では、カニやゴカイ、二枚貝などの小動物が生活しています。そして、シギ・チドリ類が生活するために彼らを餌として捕らえるのです。シギ・チドリ類の多くは、干潮の時に餌を獲ります。満潮の時には、干潟から別の場所に移動することが多いので、干潟ではあまりみられません。休息するハマシギの群れやミヤコトリ・ミユビシギに運良くであつてもあります。

浅瀬ではスズガモなどのカモ類、海上ではカモメやアジサシたちが多くみられます。スズガモの数はとても多いのですが、1970年代から比べると東京湾内の越冬数は激減しています。千葉県では、珍しいウミアイサやホオジロガモも越冬します。カモ類は数が減ってきていますが、カモメ類は数が増えてきているようです。ユリカモメやセグロカモメが越冬し、夏から秋にはウミネコが5,000羽以上みられます。夏から秋にはアジサシとコアジサシも多く、春・夏の渡りの時期に数千羽から数万羽がみられます。

夏から秋にカワウや海洋で生活するミズナギドリたちがみられることもあります。1984年10月14日には、数千羽のオオミズナギドリが観察されています(渡辺行雄私信)。



スズガモのオス

箕輪義隆/絵

東京湾は、シギ・チドリ類を中心とした水鳥類の渡来地として有名でした。残念ながら東京湾の干潟の90%以上が消失したといわれています。湾奥部に残された最大の湿地が、三番瀬なのです。東京湾の鳥類相をよく保存している三番瀬は、身近な所にあります。一度、観察に行きませんか？

(桑原和之/千葉県立中央博物館)